

# 水田利用鳥類とその保全 に関する取組と課題

Bird Species in Rice Paddy Areas, Their Conservation, and Challenges

大畑 孝二

OHATA Koji

はじめに

①水田利用鳥類

②水田鳥類の保全活動

③石川県加賀市片野鴨池での事例

④豊田市自然観察の森での事例

⑤水田利用鳥類の保全に関する課題

## 【論文要旨】

著者は自然科学の分野における鳥類学及び保全鳥類学の立場で共同研究者として参加した。水田は様々な鳥類が生息、繁殖の場として利用するとともに環境保全の立場からどのような水田環境が望ましいのかという研究がされ、その保全活動が各地で実践されている。

本編では、水田環境に依存する鳥類を概括し、筆者が携わってきた石川県加賀市にある片野鴨池および愛知県豊田市で行なわれている事例を含め、水田鳥類についての保全活動について報告するとともに課題についても記した。

水田利用の鳥類は、季節による利用区分で分けるとツバメなどの春に渡来し、日本で繁殖して秋に南方方面に帰って行く夏鳥、秋に北方方面から南下してきて冬を日本で過ごし、春先に北に帰っていくカモの仲間などの冬鳥、春に北上し秋に南下し日本を通過していくシギやチドリなどの旅鳥、スズメのように年間を通して水田及び周辺環境で見られる留鳥の4つに分けることができる。水田鳥類の保全の方法として、1. 狩猟の規制、2. 給餌活動、3. 水田環境の改善（冬期湛水水田）、4. ラムサール条約登録などが行なわれてきた。

石川県加賀市にある片野鴨池は、北陸以西ではもっとも多くマガンヒシクイが越冬するとともにマガモをはじめ、全国的に個体数の少ないトモエガモなどカモ類の飛来する国内有数の水鳥渡来地である。しかし、近年鴨池を越冬地として利用するカモ類の個体数は減少している。そのため越冬期のカモ類が採食環境として選好する水田環境やカモ類の採食行動範囲などについて調査や冬期湛水水田などを行なってきた。

豊田市自然観察の森で行なわれている「サシバのすめる森づくり」事業は、行政、NGO、ボランティア、研究者など様々なセクターが、日本野鳥の会のレンジャーのコーディネートのもとに行なっている。サシバを保全目標種にして里山保全活動を行なっているものである。

水田鳥類の保全のための課題としては、水田の放棄田・休耕田化、乾田化など水田環境の変化と利用する鳥類の繁殖地や越冬地、中継地などの環境保全などがあげられる。

資料として第10回ラムサール条約締約国会議において決議された「水田決議」を紹介した。

【キーワード】 水田、水田利用鳥類、冬期湛水水田、鳥類保全、狩猟